

平成 30 年度決算に基づく健全化判断比率等について

可児市

平成 30 年度決算に基づき、「地方公共団体の財政健全化に関する法律」の規定による健全化判断比率等を算定しましたので、公表します。(法第 3 条第 1 項及び第 22 条第 1 項による規定)

指 標	説 明	平成 30 年度決算 算出結果	早期健全化 基準	財政再生 基準
実質赤字比率	一般会計等の実質赤字の比率	— (赤字額なし)	12.54%	20.00%
連結実質赤字比率	全ての会計の実質赤字の比率	— (赤字額なし)	17.54%	30.00%
実質公債費比率	公債費及び公債費に準じた経費の比重を示す比率	0.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率	地方債残高のほか一般会計等が将来負担すべき実質的な負債を捉えた比率	— (負担見込額なし)	350.0%	
資金不足比率	公営企業ごとの資金不足の比率	— (資金不足額なし)	経営健全化基準 20.0%	

1 法律の概要

① 健全化判断比率等の公表

- ・地方公共団体の長は、毎年度、速やかに、健全化判断比率とその算定基礎事項を記載した書類を監査委員の審査に付した上で、当該比率を議会に報告し、公表しなければならない。(第 3 条)
- ・公営企業を経営する地方公共団体の長は、毎年度、資金不足比率とその算定基礎事項を記載した書類を監査委員の審査に付した上で、当該比率を議会に報告し、公表しなければならない。(第 22 条)

② 財政の早期健全化

健全化判断比率のいずれかが、早期健全化基準以上である場合は、財政健全化計画を定めなければならない。計画は議会の議決を経て、速やかに公表する。また、毎年度、実施状況を議会に報告し公表する。

③ 財政の再生

再生判断比率(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率)のいずれかが、財政再生基準以上である場合は財政再生計画を定めなければならない。計画は議会の議決を経て、速やかに公表する。また、毎年度、実施状況を議会に報告し公表する。財政再生段階の地方公共団体は地方債の起債の制限等を受ける。

④ 公営企業の経営の健全化

公営企業ごとの資金不足比率が経営健全化基準以上である場合は、経営健全化計画を定めなければならない。②と同様の仕組みにより健全化を図る。

2 各指標の算定結果

① 実質赤字比率 — (赤字額なし) (H29 : -、H28 : -)

一般会計等を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率です。赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すものです。

【H30】本市の一般会計等には実質赤字はありませんので、実質赤字比率は該当ありません。

算定方法

一般会計等の実質赤字額

標準財政規模

② 連結実質赤字比率 — (赤字額なし) (H29 : -、H28 : -)

特別会計・公営企業会計を含めた全会計の実質赤字額の標準財政規模に対する比率です。市全体としての財政運営の深刻度を示すものです。

【H30】本市は、全会計とも実質赤字（又は資金不足）はありませんので、連結実質赤字比率は該当ありません。

算定方法

連結（一般会計等＋公営企業会計）実質赤字額

標準財政規模

③ 実質公債費比率 0.4% (H29 : 0.1%、H28 : -0.5%)

一般会計等が負担する元利償還金・準元利償還金の標準財政規模に対する比率です。借金の返済に係る財政負担の程度を示します。

【H30】平成30年度の算定数値は前年度から0.3ポイント増の0.4%となりました。一般会計の起債が増加したものの、下水道事業会計の地方債償還の財源に充てた繰入金の減少により、良好な数値を維持しています。

算定方法（3カ年平均）

(元利償還金＋準元利償還金) ÷ (特定財源＋元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)

標準財政規模 ÷ (元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)

④ 将来負担比率 — (負担見込額なし) (H29 : -、H28 : -)

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率です。地方債の残高や将来支払っていく可能性のある負担等が将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すものです。

【H30】本市は将来の負担額に対して、基金などの充当財源が上回っているため、将来負担比率はありません。一般会計及び一部事務組合の地方債現在高の増加、基金の減少などにより、前年度よりも数値(H28: △136.4%、H29: △142.4%、H30: △135.8%)が増加しています。

算定方法

将来負担額 — (充当可能基金額+特定財源見込額+地方債現在高に係る基準財政需要額算入見込額)

標準財政規模 — (元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)

⑤ 資金不足比率 全公営企業会計 — (資金不足なし) (H29 : -、H28 : -)

公営企業会計(※)ごとの資金の不足額の事業規模に対する比率です。公営企業の経営状況の深刻度を示します。

【H30】本市はいずれの会計とも資金不足はありませんので、資金不足比率は該当ありません。

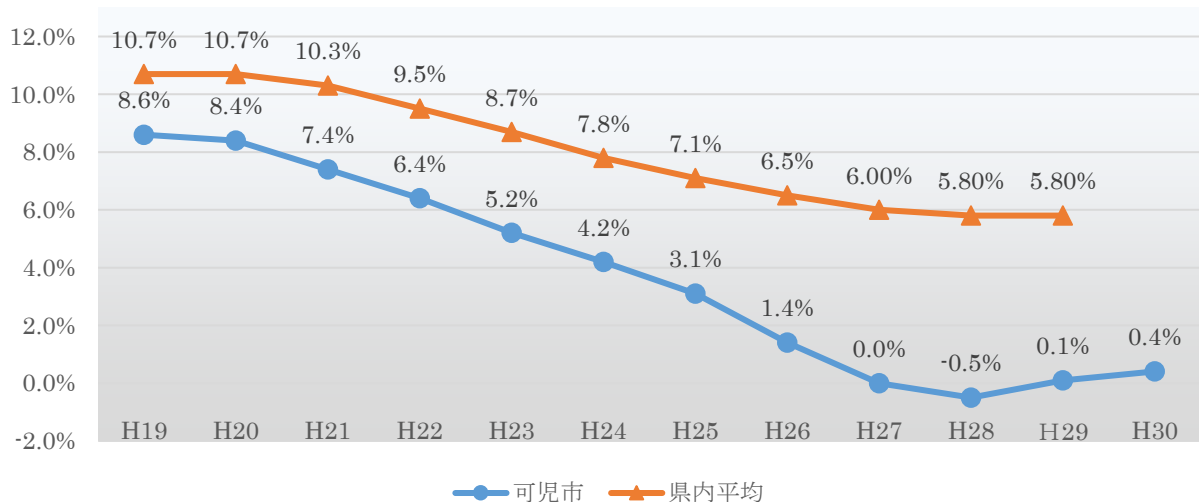
※水道事業会計・下水道事業会計・農業集落排水事業特別会計

算定方法

資金の不足額

事業の規模

実質公債費比率の推移



3 健全化判断比率等の対象について

一般会計等	一般会計		実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率	資金不足比率
	一般会計等に属する特別会計	自家用工業用水道事業特別会計 可児駅東土地区画整理事業特別会計					
公営事業会計	一般会計等以外の特別会計のうち公営企業に係る特別会計以外の会計		国民健康保険事業特別会計 (事業勘定)	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率	資金不足比率
			国民健康保険事業特別会計 (直診勘定)				
			後期高齢者医療特別会計				
			介護保険特別会計 (保険事業勘定)				
			介護保険特別会計 (介護サービス事業勘定)				
	水道事業会計						
公営企業に係る会計	法適用企業	下水道事業会計	将来負担比率	資金不足比率			
	法非適用企業	農業集落排水事業特別会計					
一部事務組合・広域連合		可茂衛生施設利用組合 可茂公設地方卸売市場組合 可児川防災等ため池組合 可茂消防事務組合 可児市・御嵩町中学校組合 中濃地域農業共済事務組合 岐阜県市町村職員退職手当組合 岐阜県市町村会館組合 岐阜県後期高齢者医療広域連合 (8組合1連合)	将来負担比率	資金不足比率			
地方公社・第三セクター等		土地開発公社	将来負担比率	資金不足比率			

4 健全化判断比率等の算定内訳

平成30年度決算に基づく健全化判断比率等の状況

健全化判断比率の状況

指標	平成30年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 (%)	—	12.54	20.00
連結実質赤字比率 (%)	—	17.54	30.00
実質公債費比率 (%)	0.4	25.0	35.0
将来負担比率 (%)	—	350.0	
資金不足比率 (%)	—	※ 20.0	

※経営健全化基準

実質赤字比率

区分	決算額 (千円)
歳入総額	(1) 33,343,518
歳出総額	(2) 30,077,558
歳入歳出差引額 (1) - (2)	(3) 3,265,960
翌年度に繰り越すべき財源	(4) 2,028,207
実質収支額 (3) - (4)	(A) 1,237,753
実質赤字額	(B) —
標準財政規模	(C) 19,025,336
実質赤字比率 (%) (B) / (C) × 100	—

実質公債費比率

区分		決算額 (千円)			
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
分子	公債費 (一般会計等に係るもの)	(1) 2,020,806	2,143,917	2,290,881	
	公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	(2) 1,744,306	1,704,519	1,654,039	
	一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	(3) 88,921	90,912	59,221	
	公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	(4) 94,342	94,444	94,548	
	特定財源 (都市計画事業の財源として発行された地方債償還額に充当した都市計画税)	(5) 1,068,326	1,038,839	1,086,922	
	元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額	(6) 2,837,552	2,859,616	2,955,819	
小計 ((1)~(4)) - ((5)~(6))	(A) 42,497	135,337	55,948		
分母	標準財政規模	(7) 19,109,956	19,063,005	19,025,336	
	元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額	(8) 2,837,552	2,859,616	2,955,819	
	小計 (7) - (8)	(B) 16,272,404	16,203,389	16,069,517	
実質公債費比率<単年> (%) (A) / (B) × 100		0.26116	0.83524	0.34816	
実質公債費比率<3カ年平均> (%)		0.4			
(2)の内訳	上水道事業	8,103	7,510	7,467	
	下水道事業	公共下水道事業	1,493,042		
		特定環境保全公共下水道事業	153,782	1,607,630	1,558,713
	農業集落排水事業特別会計	89,379	89,379	87,859	
(3)の内訳	可茂衛生施設利用組合	53,072	53,238	21,570	
	可茂消防事務組合	34,804	36,621	36,686	
	可児市・御嵩町中学校組合	1,045	1,053	965	
(4)の内訳	学校給食センター整備維持管理等事業	94,342	94,444	94,548	

将来負担比率

区分		決算額 (千円)	
		分子	分母
分子	将来負担額	(1) 21,826,300	(12) 19,025,336
	地方債現在高	(1) 21,826,300	
	債務負担行為に基づく支出予定額	(2) 608,605	
	公営企業債等繰入見込額	(3) 12,417,758	
	組合負担等見込額	(4) 1,288,457	
	退職手当負担見込額	(5) 0	
	設立法人の負債等に対する負担見込額	(6) 0	
	連結実質赤字額	(7) 0	
	組合連結実質赤字額負担見込額	(8) 0	
	充当可能基金	(9) 15,208,485	
	充当可能特定歳入	(10) 9,427,823	
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	(11) 33,331,305		
小計 ((1)~(8)) - ((9)~(11))	(A) -21,826,493	(B) 16,069,517	
将来負担比率 (%) (A) / (B) × 100		—	
備考 ・実質赤字額、連結実質赤字額、将来負担額、資金不足額がない場合は「—」を記載			

連結実質赤字比率・資金不足比率

区分		実質収支額 (千円)	事業規模 (千円)
実質収支	一般会計	(1) 1,191,533	
	自家用工業用水道事業特別会計	(2) 43,388	
	可児駅東土地区画整理事業特別会計	(3) 2,832	
	国民健康保険特別会計 (事業勘定)	(4) 374,812	
	国民健康保険特別会計 (直診勘定)	(5) 4,372	
	介護保険特別会計 (保険事業勘定)	(6) 132,244	
	介護保険特別会計 (介護サービス事業勘定)	(7) 1,849	
	後期高齢者医療特別会計	(8) 29,819	
	水道事業会計	(9) 2,201,249	2,015,685
	下水道事業会計	(10) 177,451	1,406,057
	農業集落排水事業特別会計	(11) 27,208	37,178
実質収支額 (1)~(11)の合計	(A) 4,186,757		
連結実質赤字額	(B) —		
標準財政規模	(C) 19,025,336		
連結実質赤字比率 (%) (B) / (C) × 100		—	
資金不足比率 (※)	水道事業会計	—	
	下水道事業会計	—	
	農業集落排水事業特別会計	—	

※資金不足額 / 事業規模